Fuji Keizai Group

PRESS RELEASE

第２６０７６号

２０２６年７月２２日

株式会社 富士経済
〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目
9番1号 日本橋三丁目スクエア
TEL. 03-3241-3470 FAX. 03-3241-3471
https://www.fuji-keizai.co.jp/

広報部 TEL. 03-3241-3473
https://www.fuji-keizai.co.jp/press/

２０２６ ワクチン市場を調査

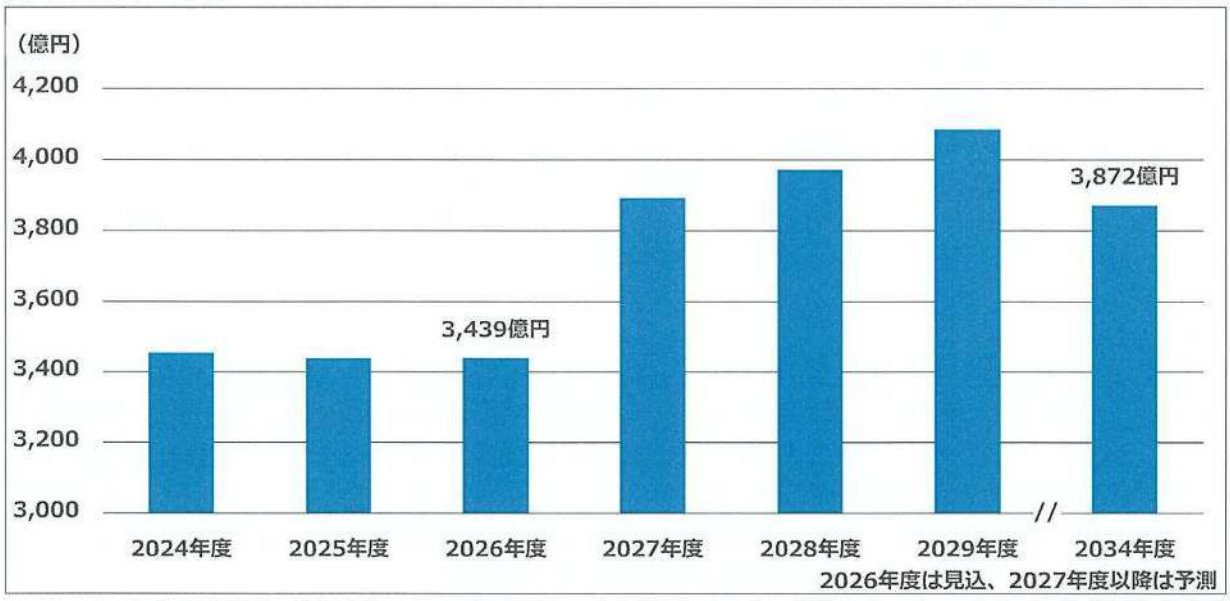
― ２０３４年度予測（２０２５年度比） ―
■国内ワクチン市場 ３，８７２億円（１２．６%増）
短・中期的に市場は拡大、長期的には接種回数の減少により縮小へ

★インフルエンザワクチン ６２２億円（１３．３%増）
需要の一部はシフトするも、高単価ワクチンが市場を下支え、拡大推移を維持
★新型コロナワクチン ４５０億円（３３．８%減）
２０２５年度以降縮小。混合ワクチン登場で縮小に拍車
★新型コロナ・インフルエンザ混合ワクチン ３６１億円
一度の接種で同時に予防できる利便性から一定の需要を取り込み拡大

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋 代表取締役 菊地 弘幸 03-3241-3470）は、２０２５年度は帯状疱疹ワクチンが定期接種Ｂ類に、新規肺炎球菌ワクチン「プレベナー２０」が小児向けで定期接種に組み込まれ、２０２６年度にはＲＳウイルスワクチンが定期接種Ａ類に、また、高用量インフルエンザワクチンが定期接種Ｂ類に組み込まれることが決定、そして今後ＲＳウイルスワクチンの高齢者向けやＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの男性向けの定期接種化など、新たな展開も期待される国内のワクチン市場を調査した。その結果を**「ワクチン市場 ２０２６」**にまとめた。

この調査では、２０２５年度のトレンド、２０２６年度以降のトピックス・新展開を押さえながら、２０３４年度までの国内ワクチン市場を展望した。

＜調査結果の概要＞
■国内ワクチン市場



２０２５年度の市場は、前年度比０．５%減の３，４３８億円となった。帯状疱疹ワクチンが６５歳を対象とする定期接種Ｂ類になったこと、また、同時に７０歳、７５歳、８０歳、８５歳、９０歳、９５歳になった人、１００歳以上の人を対象にキャッチアップ接種が行われたことがプラス要因となった。しかし、新型コロナワクチンの接

種回数が国の補助終了に伴い自己負担額を引き上げた自治体を中心に減少し、マイナスとなった。また、ＨＰＶワクチンのキャッチアップ接種が２０２４年度で終了したこともマイナス要因となっている。

海外では無償化されているが日本では任意接種となっているワクチンや接種率が低いワクチンは多く、政府や厚生労働省は定期接種化の検討を進めている。ＲＳウイルスワクチンは、妊婦向け（母子免疫）が２０２６年度から定期接種化された。自治体の助成が進む新生児向けＲＳウイルス予防薬（抗体製剤）も予防接種法の枠組みで定期接種化が期待される。ＨＰＶワクチンについては、女性向けはキャッチアップも終了し、接種が進んでいる。男性向けは早ければ２０２７年度には定期接種化が期待される。そのほかノロウイルスやヒトメタニューモウイルスなどのワクチン開発が海外を中心に進められている。アンメットニーズが高いことから、発売されれば早期に定期接種化される可能性がある。

一方で、人口の減少、特に新生児の減少による接種回数減少がマイナス要因となり、長期的には市場は縮小に転じると予想される。

＜注目市場＞

■■インフルエンザ／新型コロナ／新型コロナ・インフルエンザ混合ワクチン



★インフルエンザワクチン

２０２４年度はインフルエンザ流行の始まりが遅かったことや新型コロナワクチンの接種疲れから、定期接種Ｂ類を中心に接種回数が減少したが、２０２５年度は流行の始まりが早かったことから僅かに増加した。また、２歳以上１９歳未満向けの点鼻ワクチン「フルミスト」（第一三共）の接種回数が前年度に比べ増加した。単価が高いことから市場を押し上げる要因となった。２０２６年度は高用量インフルエンザワクチン「エフルエルダ」（サノフィ）が７５歳以上向けに定期接種化が予定されている。単価が一般の不活化インフルエンザワクチンに比べて高いことから、接種層の一部が切り替えることで市場は前年度比二桁増が見込まれる。

今後は、成人向け点鼻ワクチンの発売が期待される。注射を嫌う層の需要掘り起こしにつながる可能性がある。一方で、新型コロナとの混合ワクチンが登場するとみられ、接種層の一部がシフトすると予想される。

★新型コロナワクチン

５類感染症になって以降、新型コロナワクチンの接種意識は低下しており、特に若年層の接種離れが進んでいる。２０２５年度は国の助成終了に伴い多くの自治体で定期接種Ｂ類の自己負担額が増え、接種回数が減少したことから、市場が大きく縮小した。メーカーを中心に新型コロナ感染症やそのワクチンに対する啓発活動は続けられているが、自己負担額の高さや接種が習慣化されていないことから、２０２６年度も縮小するとみられる。今後インフルエンザワクチンとの混合ワクチンが発売されれば早い段階で定期接種Ｂ類に組み込まれるとみられ、一部の接種層が混合ワクチンにシフトし、市場は更に縮小すると予想される。

★新型コロナ・インフルエンザ混合ワクチン

新型コロナ・インフルエンザ混合ワクチンは、現在開発中である。新型コロナワクチンとインフルエンザワクチ

ンを接種する層にとっては一度の接種で予防できるため、その利便性から一定の需要があるとみられる。２０２８年度頃には発売され、市場が立ち上がると予想される。

＜調査対象＞

インフルエンザワクチン、新型コロナワクチン、新型コロナ・インフルエンザ混合ワクチン、ＲＳウイルスワクチン、水痘ワクチン／帯状疱疹ワクチン、ＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）ワクチン、肺炎球菌ワクチン、３種／５種／６種混合ワクチン、Ｂ型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチン、麻しん・風しん混合ワクチン（麻しんワクチン／風しんワクチン）／麻しん・風しん・おたふくかぜ混合ワクチン、おたふくかぜワクチン、その他ワクチン

＜調査方法＞

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

＜調査期間＞

２０２６年３月～５月

以上

資料タイトル：**「ワクチン市場 ２０２６」**
体　　裁：Ａ４判　６０頁
価　　格：ＰＤＦ版　３３０，０００円（税抜３００，０００円）
　　ネットワークパッケージ版　４９５，０００円（税抜４５０，０００円）
発 行 所：株式会社　富士経済
　　〒１０３－００２７　東京都中央区日本橋三丁目９番１号　日本橋三丁目スクエア
　　ＴＥＬ：０３－３２４１－３４７０（代）　ＦＡＸ：０３－３２４１－３４７１
　　URL：https://www.fuji-keizai.co.jp/　　e-mail：info@fuji-keizai.co.jp
調査・編集：ライフサイエンス事業部

この情報はホームページでもご覧いただけます。　URL：https://www.fuji-keizai.co.jp/press/